

# 令和5年度（2023年度）第1回千葉県体育学会大会 抄録

## <一般研究>

対話的な学びを引き出す協同学習を用いた授業づくりー運動好き・体育嫌いの生徒の発話分析をもとにー

○小林慶（千葉大学大学院）

本研究では、運動好き体育嫌いと呼ばれる子に焦点を当て、彼らが体育を好きになったり学びを得られたりする授業を、協同学習と対話的な学びの視点から検討することを目的に、第1検証授業を行った。

A 中学校第1学年38名のクラスに質問調査を行い、運動好き体育嫌いの傾向がみられた2名を対象とした。単元は集団マット運動で、一人一人にICレコーダーを装着し、発話分析を行った。その結果、抽出生徒は、自分の考えや意見をもっているにも関わらず、双方向的なやりとりになっていなかった点や周囲に気を遣い、自分のやりたいことができないなど周囲の影響を受けていた点が示唆された。協同学習という面では、男女別の関わりなど関わりに男女差があった点、発表練習が作成目的になり、美しさの追及にならなかった点がみられた。これらを踏まえ、第2検証授業では、抽出生徒の体育への具体的思考をインタビューしたり社会性を取り入れた協同学習を用いたりし、彼らがより学ぶことができる授業を検証する。

## <実践研究>

障がい者スポーツの環境整備に関する研究

○大浜真（NPO法人スマイルクラブ）、中島一郎（元国際武道大学）、馬場宏輝（帝京平成大学）、尾高邦夫（順天堂大学）

千葉県では、障がい者がスポーツを始める際に、自ら情報収集しないといけない。その手間が始めるハードルを上げていると考え、スマイルクラブが各自治体・スポーツクラブ・施設などの情報を一つにまとめたホームページを作成、環境整備をするプロジェクト内で市町村へのヒアリングを実施した。ヒアリング結果から障がい者スポーツの環境整備はどのように異なるのかを比較し、その原因・要因を考察することを目的とした。

環境整備の大きな違いは「組織体制」、「人材育成」にあり、その原因・要因は「人口規模」、「財政規模」、「自治体のつながり」であった。

「人口規模」、「財政規模」が大きいほど体験会などの実施がされており、企業や地域団体と連携がされている。小さい地域でも市町村同士が連携しあって開催することで、障がい者スポーツの環境整備が進むという結論となった。

## 東京 2020 大会のレガシーづくりに関する実践研究～日本ソフトパラフェンシング協会の活動を通じて（第 2 報）～

○馬場宏輝（帝京平成大学）、遠藤隆志（植草学園大学）、下永田修二（千葉大学）、藤森孝幸（敬愛大学）

第 1 報では、東京 2020 大会のレガシーとして、「ソフトパラフェンシング」を開発し、その普及の為に、「日本ソフトパラフェンシング協会」を設立、公認審判員の資格認定や体験会等を実施していることを紹介した。第 2 報では、半年間の活動の成果として、第 1 報における今後の課題を第 2 報の研究目的に設定し、以下の成果があったと報告した。「体験会・審判講習を通じて、ポストパラボラ世代の育成が進んでいる（5/13 時点で 171 名）」「帝京平成大学では、パラスポーツサポートサークルが部に昇格した」「依頼による大口の審判講習（青森県他）や体験会の実績を積み上げていく」「パラスポーツフェスタちばの体験ブースが決まるなど自治体への認知度がアップした」「中級パラスポーツ指導員を目指す、池袋キャンパスの学生の育成も進んでいる」。今後は、主催事業の実施、学校現場（小学校・特別支援学校）での普及活動、高齢者施設での普及活動に力を注いでいきたい。最後に、単に事業を展開するというよりも、ソフトパラフェンシングに込めた思想を広めたいという点を強調した。

### <授業研究>

#### 事前・事後学習・モニタリングの充実による教育的効果を高めた地域ゴルフ場での 5DAY オリジナルインターンシップの取組

○庄司一也（帝京平成大学）

帝京平成大学では 2021 年度に引き続き、2022 年度もパシフィックゴルフマネージメント株式会社(PGM)と連携したゴルフ場でのオリジナルインターンシップを実施した。

2021 年度ですでに十分完成されたインターンシップであったが、今回は 5 日間のプログラムで、特に「事前・事後学習・モニタリングの充実と改善」に取組んだ。

すなわち「事前学習」として、5 日間毎日インターンシップ開始前に 1 時間、専用の部屋で予定確認や目標設定等を行った。

「事後学習」では、当日のインターンシップ終了後に、1 時間程度振り返りや録画ビデオ視聴、意見交換、研修日誌の整理などを行った。

モニタリングでは、①教員による対面でのモニタリング、②ICT を活用したリモートモニタリングを充実させ、特に後者で関係機関に同期・非同期でビデオや写真、その他資料等を共有し情報交換等も行った。

これらの取組みの結果、学生の自己評価や企業からの評価などインターンシップの教育的効果がより一層向上したほか、多く成果につながった。